

那 覇 市 教 育 委 員 会 会 議 録

平成30年度（2018年度）第15回（定例会）

署名人 本 仲 範 男

教育長 田 端 一 正

開催日時 平成30年（2018年）12月6日（木）

開会 午前10時00分

閉会 午前10時41分

開催場所 那覇市役所11階 1101A・B会議室

出席者

【教育長・教育委員】

田端一正教育長、本仲範男委員、比嘉佳代委員、喜屋武裕江委員、平良浩委員

【事務局職員】

【生涯学習部】屋比久猛義部長、山内健副部長

（総務課）仲程直毅課長、森田勝副参事、奥浜隼人主査、平安真希子主査

【学校教育部】奥間朝順部長、森田浩次副部長

議事日程

- 1 報告1 第2次那覇市教育振興基本計画の「指標と目標」に係る平成29年度の進捗状況について

【総務課】

会議録作成（総務課）平良俊弥主査

田端教育長 ハイサイ、平成30年度第15回教育委員会会議（定例会）を開催いたします。本日の会議録署名は本仲委員にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

本日の議事日程ですが、報告1件ということになっております。それでは報告1「第2次那覇市教育振興基本計画の『指標と目標』に係る平成29年度の進捗状況について」であります。では、説明を屋比久生涯学習部長、お願いします。

屋比久部長 報告1でございます。「第2次那覇市教育振興基本計画の『指標と目標』に係る平成29年度の進捗状況について」、第2次那覇市教育振興基本計画の「指標と目標」に係る平成29年度の進捗状況について、別紙のとおり報告する。平成30年12月6日提出。教育長 田端 一正。報告理由 第2次那覇市教育振興基本計画の「指標と目標」に係る平成29年度の進捗状況について、別紙のとおりまとめたので、その結果を報告するものでございます。詳細につきましては、総務課の方から説明を行います。

田端教育長 仲程総務課長、お願いします。

仲程課長 それでは、本日の案件に入る前に、報告書とはどういうものかということについて改めて確認をしたいと思います。計画書の1ページを開いていただきまして、2の計画の位置づけ及び期間というところを少し読み上げます。

本計画は、本市の「教育の基本理念」のもと、「教育の目標」の実現に向けて、本市の教育に関する施策を体系的に示すものであると同時に、「第4次那覇市総合計画」に掲げる6つの都市像のうちのひとつ「子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市」の教育に関する部門計画としても位置づけ、同計画を補完するものです。策定にあたっては、教育基本法第17条第2項の規定に基づき、国の「第2期教育振興基本計画」を参酌するとともに、「沖縄県教育振興基本計画」も参酌しています。さらに、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3第1項の規定に基づき、平成27年6月に市長が策定した「那覇市の教育及び文化の振興に関する大綱」や、本市における既存の計画等との整合性をとっています。計画の期間は、国の「第2期教育振興基本計画」及び「沖縄県教育振興基本計画」の前期計画と同じ5年間とし、平成28年度から平成32年度までとしますということで、計画の概要はこのようなとなっております。

この計画書の構成としましては、中をご覧になるとわかると思うんですけども、施策ごとに、現状と課題、具体的施策、そして進捗をはかるための「指標と目標」というのが記載されております。今日はこの「指標と目標」に係る平成29年度実績について、報告をするということになります。それでは詳細については、奥浜主査の方から説明をいたします。

田端教育長 奥浜主査、お願いします。

奥浜主査 それでは、A3サイズの資料、左の方に様式2と書いている資料の1ページをご覧

ください。こちら平成29年度実績をまとめた総括表でございます。平成29年度までは第4次総合計画の計画期間ですので、表の一番左にある都市像・施策は第4次総合計画の内容となっております。その横に具体的施策・指標・現状値がございます。

第2次那覇市教育振興基本計画は平成28年度からスタートし、計画策定時の最新の実績値は平成27年度ですので、この現状値は平成27年度の数値が記載されております。しかし、中には平成27年度実績が出ていないものもあります。その場合は、「(平成26年度)」として平成26年度の実績が表記されています。現状値の右横に太枠で囲まれている部分が、平成28年度、29年度の実績値でございます。その右横に平成30年度の間目標値、そして平成32年度の最終目標値がございます。今回は平成29年度の実績値を、平成30年度の間目標及び現状値と比較をして、進捗状況をご説明いたします。その前に大変申し訳ありませんが、実績の修正がございまして、2ページをお願いいたします。指標番号25 埋蔵文化財の解説会及び展示会の開催数をご覧ください。平成29年度の実績値が2回となっておりますが、3回へ修正をお願いします。城西小学校の工事に伴う発掘調査がございまして、その成果に関するパネル展を首里公民館と壺屋焼物博物館で開催をいたしました。同一内容ということで、1回とカウントしてしまったということがございます。実際の展示会はこのパネル展の2回と、那覇遺跡展というのをほしぞら公民館で開催をいたしましたので、平成29年度の実績としましては3回となっております。平成29年度の実績値は、この平成30年度の間目標値3回を達成しましたので、進捗状況はAとなります。今、資料には進捗状況はDと記載されているので、DからAへ修正をお願いします。

進捗状況については、1ページの右上に平成30年度目標値との比較がございますのでご覧ください。A・B・C・Dがございますが、平成29年度の実績が平成30年度目標値に達していれば、目標達成として進捗状況はAとなります。今、ご説明しました指標25番がDからAへ変更になりましたので、Aについては7件とありますが、この1件を追加しまして8件へ修正をお願いします。平成30年度の目標値に達していない指標は、B・C・Dのいずれかとなります。現状値より前進した指標は、Bとなり、12件ございます。現状値より一部前進した指標はCとなり、1件あります。指標によっては目標が2つあるということもございます。どちらか一つが現状値よりも前進した場合は、Cとなっております。また、現状値より後退した指標は、Dとなります。資料では5件となっておりますが、先ほど、ご説明しましたとおり、Dが1件減りましたので、4件への修正をお願いします。進捗状況がC及びDの指標について、ご説明いたします。

それでは、1ページの指標番号10 朝食を毎日摂取する児童生徒の割合①小学生②中学生をご覧ください。これは那覇市の方で生活習慣調査というのを、毎年6月に

実施しております、その結果でございます。小学生の現状値84.7%に対して平成29年度の実績値は84.6%で、現状値よりも0.1%減となっております。中学生の現状値80.7%に対して平成29年度の実績が79.4%で、1.3%減となっております。小中学生ともに現状値よりも数値が下がっていますので、進捗状況はDとなっております。

それでは指標番号11 全国学力・学習状況調査における全国平均正答率との差(中学校国語)をご覧ください。こちらはA・Bの2つの目標値を設定してまして、Aは基礎・基本の問題、Bは活用に関する問題・応用問題となっております。Aの現状値が-3ポイントに対して平成29年度実績値が-2.4ポイントで、0.6ポイント改善されております。Bの現状値-1.4ポイントに対して平成29年度実績値が-2.2ポイントということで、0.8ポイント全国との差が広がっております。このように目標値が2つありますが、目標値Aについて現状値より改善されていますので、現状値の一部前進となり、進捗状況はCとなっております。

続いて2ページをお願いします。指標番号13 小学校の不登校率をご覧ください。現状値、これは平成26年度の数値ですが、現状値0.46%に対して平成29年度が0.87%で、現状値より0.41%上昇しています。そのため進捗状況はDとなっております。指標番号14 中学校の不登校率をご覧ください。現状値が3.53%に対して平成29年度が4.22%で、現状値より0.69%上昇していますので、進捗状況はこちらもDとなっております。不登校率は全国的にも増加傾向にありまして、沖縄県も増加しています。同様に那覇市についても増加している現状がございます。

指標番号19 小中学校の校内研修の講師を務めた琉球大学の先生の延べ人数(NARAEネット活用)、現状値65人に対して平成29年度実績が42人ということで、現状値より23名減少していますので、進捗状況はDとなっております。琉球大学の講師一覧表などを各学校に配布などして、各学校への講師の紹介を行っていますが、琉球大学の都合で講師が派遣できないということもあります。また、琉球大学は他市町村へも派遣していることから、人数を増やすことが厳しくなっている現状がございます。説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

田端教育長 ありがとうございます。では、この件についてご質問、あるいはご意見等、よろしくお願ひしたいと思います。今、説明のありましたのはCとDでしたが、それ以外の項目でもよろしいですので、お願ひしたいと思います。はい、平良委員、どうぞ。

平良委員 指標番号3 地域学校連携施設における運営委員会の設置と学校数とありますけれども、この運営委員会の構成メンバーというのはどうなっているのでしょうか。ちょっと教えていただけないでしょうか。

田端教育長 屋比久生涯学習部長、どうぞ。

屋比久部長 運営委員会の構成メンバーは、特にこのメンバーという決まりを設けているわけで

はないんですが、まず学校、それから地域の地域学校連携施設を使っている利用団体の方、地域の自治会の方、それから民生委員、大体、そういった構成になっています。あとはPTAであるとか、あるいは学校の児童クラブに関わっている方といった方々が構成委員になっています。

平良委員 わかりました。

田端教育長 よろしいでしょうか。他にありませんでしょうか。比嘉委員、どうぞ。

比嘉委員 指標番号10 朝食を毎日摂取する児童の割合というのは、アンケートを行っているということですが、アンケートの回答対象は児童なのか、それとも保護者なのかということ。また、アンケートの回収率についても、回収できていない子がいるんだったら、それはどのくらいなのかで、全体の実績も変わってくるのかなという気がするんですが、その比率がわかれば知りたいなと思います。

田端教育長 奥間学校教育部長、どうぞ。

奥間部長 回収率の方は少し確認が必要かなと思います。対象は全児童生徒となっております。

比嘉委員 わかりました。ありがとうございます。

田端教育長 子どもに聞いたということですね。はい、本仲委員、どうぞ。

本仲委員 今回の件に関連して、非常に大事なことで、子どもに聞くのも良いし、定期的に保護者に聞いても良いんじゃないかなというふうな感じがしますね。そうすると、精度が上がっていくんじゃないかなということが一つですね。それから、この朝食をとるといのは、やっぱり生活リズム確立の一環ですよ。生活リズムというのは、例えば学力の向上であるとか、生徒指導とか、そこを支える大きな力ですからね。あと、良いなと思っているのは、ここで6時半という数字が出ていますよね。この6時半という数字が出たのは、この資料が初めてなんです。授業が始まる2時間前に起きることが望ましいということから、授業が8時半で始まるので、逆算すると起床時間は6時半なんです。僕はそれで6時半ということを明記してくれませんかという話を会議の中でしたことがあるんですよ。小学生は最低9時間の睡眠時間が必要なので、逆算すると夜の9時半ということになるんですよ。だから、小学校低学年は9時頃くらいまでに寝ると、9時間の睡眠時間がとれる。だけど、中学年は9時半頃、そして5年生、6年生は部活とか学習もあるので最低10時には寝ようとなってくると、8時間半の睡眠しかないんですよ。それからするとこの生活リズムというのは、教育委員会が軸をきちんと指標を決めて、各学校に参考にさせるような、そういう仕組みが取れないかなということでもいつも考えているんですが、ここで6時半というのが出ていたので、凄く良いなと思っています。

奥間部長 いわゆる630運動というのがありましたよね。6時半に起きて、6時半までには帰りましょうというのがあったんですけど。

本仲委員 これってまだ浸透していないわけですよ。各学校の教育計画を見ると6時半という

数字はあんまりないんです。だからそこを明記してほしいんです。その根拠は何かと言うと、さっき私が言ったような生活リズム確立面でね。小学校は必ず9時間の睡眠時間をとるといふ、これは子どものためですからと強く言っても良いんじゃないかなという感じがするんです。ちょっとこれを見て、そういうことを感じました。

田端教育長 ありがとうございます。比嘉委員、どうぞ。

比嘉委員 睡眠に入る時間の調査をしたことは、あるんですか。

仲程課長 教育振興基本計画の24ページに載せています。上が就寝時刻で、下が起床時刻となっています。今、委員がおっしゃった就寝から9時間というのに、大体、符合するみたいですね。

本仲委員 この辺は、もうちょっと強く指標を出しても良いんじゃないかな。低学年になればなるほど、それから幼児になればなるほど、睡眠時間をたっぷりとってほしいですね。

田端教育長 今、ありましたように、朝食をとるためには早く起きて、そのためには早く寝ないといけないということなんですけど、この基本計画の24ページを見ますと、幼稚園児から低学年・高学年・中学生とありますが、年齢が上がるに従って寝る時刻が遅くなっていく傾向にはありますよね。はい、比嘉委員、どうぞ。

比嘉委員 これも児童に取っているアンケートですか。これは保護者ですか。

奥間部長 児童だと思います。

比嘉委員 児童だと、正確性がないという可能性も高いですよ。夜寝ることに関しては。例えば、ベッドには9時半に入るけど、寝る前にちょっとゲームをしているので、実際に寝ているのは何時かわからないというケースがあるので、それは親御さんの確認があったほうが、もっとより正確だなという気がします。高学年にいけばいくほどですね。

本仲委員 そうするとね。この数字の精度が上がるかも。

田端教育長 この調査は毎年されているんですよ、年に一回。はい、喜屋武委員、どうぞ。

喜屋武委員 このアンケートは子ども達に何の時間、どのタイミングでとっているんでしょうか。

仲程課長 それは、調査の時間ということですか。

喜屋武委員 時間ですね。4月とか。

奥間部長 6月にやっていますので、学級活動とか、あるいは、帰りの会で少し時間を取ってやるとか、朝の会で時間を取ってやるとか様々だと思います。

田端教育長 学校で子ども達に直接聞いておりますので、ほぼ回収率は100%に近いと思います。はい、どうぞ。

森田副部長 今回の件ですけれども、ちょっと確認をしましたら、全校、全学年で実施しているんですが、一クラスの抽出だそうです。回収率については、その場で調査票を渡して、その場で回答書をもらうようにしているので100%とのことでした。

喜屋武委員 わかりました。

田端教育長 はい、本仲委員、どうぞ。

本仲委員 指標11の中学校の学力・学習状況調査ですけれども、目標値との比較ということで、A・B・C・Dと評価をつけているんですが、中学生は伸びてきているんですね。だから、これについては中学生を褒めたいなという感じがするんです。平均点の1点、2点を上げるのは大変なことなんです。だからこれは大いに教育委員会が評価してほしいなと思います。

田端教育長 喜屋武委員、どうぞ。

喜屋武委員 少しこれに関連して。以前もちょっとお話したんですけど、最近全国放送のバラエティー番組で、沖縄県の中学生の学力がどうして低いのかっていう特集を組んでいたんです。私、3回位追跡で見たんですけど、元々始まったのが、沖縄の子ども達で自分の住所が書けない中学生がいっぱいいるという所からスタートしているんですね。この番組で国際通りを歩いている子ども達にインタビューしていったら、小学生は成績が良いけど中学生になると成績が全国最下位になるって話をして、それはなぜなのかということで、子ども達にインタビューをしているんです。そしたら、私はあんまり聞いたことがない方言なんですけど、この中学生の子たちが言うには、「勉強頑張ったら、皆にまーめーと言われるから勉強頑張りがたくない」って言っていたんですね。真面目、それが馬鹿にされるから、勉強とか席次を伸ばすということに恥ずかしさがあるから、勉強頑張りがたくないんですってというようなことを言っていて、これが全国放送で3回位流されていたんですね。本当にここら辺の路地道とかでつかまえて話を聞いているので、ここらの学校と思うんですけど、調査地が那覇市というのが心苦しくて。もうちょっと子ども達の本音とかがあっていう所にも沿って、簡単なアンケートでも良いんだけど、そういうのって必要なかなって思ったりもしました。

田端教育長 奥間学校教育部長、いかがでしょうか。

奥間部長 一部の意見だと思います。全部が全部そういうものではないので、番組の中でやっぱり抽出して面白い方を取り上げているのかなと思っています。計画訪問に行かれて、ご覧になられるとわかると思うんですが、子どもたちはいたって、授業の中で一生懸命、真面目にやっている現状だと思います。会議の後の学力向上の勉強会の中でも出てくるとは思いますが、中学校は今、最下位となっているんですけど、実際は10年前の最下位と今の最下位は全然違うんですよ。次点の県とも、だいぶ差が縮まってきました。前は、この平均値の前後5ポイントは正常な範囲ですよと言われていたんですね。今、正常な範囲に入っているんですよ。年々、那覇市では差が縮まってきたという現状にある。ただ、残念ながら全国平均は超えていませんよということです。先程言ったように、子ども達も一生懸命頑張っていますし、先生方も授業改善と頑張っていますし、これからクリアしていくものだと思います。

田端教育長 休憩します。

～ 休憩 ～

～ 再開 ～

田端教育長 それでは再開いたします。今、朝食の件、それから起床時刻等の件、学力向上についての件、ありましたけれども、同じことでもよろしいですけど、他でも良いですが、いかがでしょうか。はい、比嘉委員、どうぞ。

比嘉委員 13、14番の不登校の件なんですけど、このパーセンテージが上がっている部分の理由というか、それがどうしてかというのは、調査されて結果は出ているのでしょうか。

田端教育長 奥間学校教育部長、どうぞ。

奥間部長 毎年、この調査はかかっております。結果も、多様に富んでいるという表現が確実なのかなという思いがします。以前までは中学校は遊び非行型というのがダントツだったんです。今は、そうでもないんです。家庭や人間関係の問題とかいろいろなものが出てきて、あるいは、生活面とかそういった部分が出てきております。今、詳しいデータ持っていないのですが、多岐にわたっているということですね。そういった形で、これも全国的に増えている現状があるということですね。

田端教育長 比嘉委員、どうぞ。

比嘉委員 参考になんですけど、今、私達を取り扱っている事例で、起立性調節障害という障がいがあって、これが早寝・早起きと関係する障がい、睡眠の乱れ、ホルモンの乱れで交感神経が過少になったり過剰になったりして、朝起きられない子が増えてきている障がいなんです。早寝・早起き・朝ごはんの方と、この不登校の方との絡みで、総合的にアンケート調査を取られると、多分、明確になってくると思うんですね。大体、全国の小学生で約5%、中学生の約10%が、この障がいを持っていて、不登校の3から4割に達しているというデータも出ていますので、それも含めて那覇市も調査してみるといいのかなと思います。今、昔みたいに遊びに行っただけではなくて、本当に先程も言ったように、夜中にパソコンを見ていたりとか、スマホを見ていたり、ゲームをしていたりという例がうちのお預かりの方は多くて、それを取り上げて睡眠の監視をすると学校に行けるようになったというケースが出てきています。これは薬も飲んで、治療をするという障がいなので、それも含めて、今後、検討出来たら、もっと不登校率と早寝・早起き率とかが変わってくると思いますので、学校教育課と調査する課、担当課が違っているので、できれば一緒が良いなと思いました。参考にいただければと思います。

本仲委員 これ何障がいと言うんですか。

比嘉委員 起立性調節障害です。全国の不登校の3から4割ということで、このデータも小児学会で出てはいます。多分、沖縄は多いと思います。

本仲委員 薬を飲んだりするんですか。

比嘉委員 ホルモンの薬も飲みますね。でも一番はやっぱり生活リズムを整えるということと、あまり液晶を見せないこと。ゲームだったり、タブレットだったり、見せないという治療が必要になってきますね。

田端教育長 なるほど。指標34の不登校の数字なんですけど、平成27年度小学校が0.46ですが、去年度が0.8なんです。倍近くになっていますね。中学校が同じく3.53から4.22になっています。この計画を作った当初は、平成32年度には全国並みにするという、小学校が0.40、中学校2.90を目標にしているんですけども、ちょっと増えていっていますので、小学校はこの去年の0.8を半分に減らさないといけないということで相当な高い目標ということでありますね。先程、説明にありましたように、全国的にも不登校率は上がってきているということなんです。今、生活リズムの問題がある子も、だいぶ含まれているかなという気がいたしますが、どうでしょう学校教育部、今やっていることとか、大切なこととか、限界ということがあれば。奥間学校教育部長、お願いします。

奥間部長 確かに不登校の数というのは、年々、増えてはきております。特に小学校が増えている部分なんです。小学校がボンと増えていて、その流れで中学校が増えているみたいな形があります。ただ、今は社会的にも不登校の考え方というのが少し変わってきていて、必ず学校に行って、勉強をなささいというものではないですよというものも出てきてはおります。実際、パソコンを使いながら授業というものも文部科学省から資料は持たされておりますが、子ども達が学校に行かなくても、勉強はできるとの考え方も出てきたという部分もあるんです。ただ、私達や学校の先生方としては、不登校という部分に対して、その復帰率というのがありますが、登校復帰率を上げていくことによって、不登校であった子ども達が、学校に登校できるようにしようということで、今、取り組んでいる所なんです。これが教育相談課とか、個々の取り組みの中に、いろんなことをやりながら取り組んでおります。成果として、中学校は登校復帰率は高くなりつつあると、残念ながら小学校の方は少し数が増えてまだまだ低いんですけれども。そういうこともあって、今年度の目標は、夏休みに本土の方から大学の先生を招いて、不登校になった子ども達のアセスメントをしっかりとやっていきましょうねということで、どういう原因で、そういう環境でどういうふうになっているか、そしてこれをどういうふうに対応していくか、ということを実職員でやっていましょうということ研修会でやりました。これを学校の方にも周知しながら、今、取り組んでいる所ではあります。これはすぐには改善はできないと思いますが、そういった取り組みはしっかりとやっていくことが必要じゃないかなということで、今、取り組んでおります。

田端教育長 ありがとうございます。本日は、会議が終了した後の勉強会にこの案件も入っていますので、その時に詳しくやりたいと思います。他にございますでしょうか。大丈夫

でしょうか。それでは、報告1「第2次那覇市教育振興基本計画の『指標と目標』に係る平成29年度の進捗状況について」の件は、ここで終了したいと思います。以上をもちまして、平成30年度第15回教育委員会会議（定例会）を終了いたします。